

令和6年度長野県果樹農業振興方針

(第4期長野県食と農業農村振興計画 令和6年度実行計画)

令和6年3月18日 長野県農政部園芸畜産課

1 くだもの王国づくりの推進

本県の果樹農業は、恵まれた気候や立地条件、高い技術力を活かし、りんご「シナノリップ」やぶどう「クイーンルージュ®」など、ポテンシャルの高い県オリジナル品種を中心とした果実の生産が進みつつある中、担い手不足や生産力が低下した果樹園の増加等により生産量の減少が進んでいます。

今後、農業者の稼ぐ力の向上に向け、経営改善による安定生産や品質向上への取組を支援するとともに、改植等による生産基盤の強化を図り、全国屈指の果樹生産県として、実需者や消費者から信頼される、「くだもの王国づくり」を目指します。

また、地域計画等をもとにした担い手への農地集積や規模拡大を支援するとともに、AI等を活用したスマート農業技術の導入、炭化したせん定枝の炭素貯留による脱炭素化の取り組みを促進します。

2 達成指標

項目	2021年度 (現状)	2027年度 (目標)	設定の考え方
果実産出額	894億円 (2020年度)	945億円	本県果樹の生産力強化やマーケットニーズに即した果実生産を進め、日本一の果実産出額をめざす
りんご高密度植栽培導入面積	590ha	680ha	高単収・早期成園化が可能なりんご高密度植栽培の導入を推進し、産地基盤の強化を図る

3 具体的な施策展開

●日本一をめざす果樹（りんご、ぶどう、なし、もも）の産地力向上と稼ぐ力の強化

■りんご

- ・高密度植栽培導入計画（新しい化栽培含む）

	長野県	主な産地			
		上田	上伊那	松本	長野
現状（2022）	603ha	19ha	154ha	140ha	137ha
目標（2027）	680ha	22ha	160ha	150ha	157ha

- ・りんご栽培のスタート役を担う「シナノリップ」や、実需者や消費者から需要の高い「シナノスイート」等、県オリジナル品種の導入を推進し、生産力強化と長期出荷体制の構築を図ります。
- ・従来の栽培方法と比べ、高単収と早期成園化が可能な「りんご高密度植栽培」の導入を推進し、正品果率の向上を図ります。
- ・「りんご高密度植栽培」の普及拡大に必要なフェザー苗木の生産力強化を図るため、苗木生産に必要な作業機械等の導入を支援します。
- ・「りんご高密度植栽培」の課題となる、施肥管理や凍害対策等の徹底を図り、安定生産と品質向上を推進します。

■ぶどう

・「クイーンルージュ®」導入面積計画

	長野県	主な産地					
		上田	上伊那	南信州	松本	長野	北信
現状 (2022)	159ha	12ha	4 ha	11ha	12ha	84ha	31ha
目標 (2027)	224ha	19ha	5 ha	18ha	21ha	104ha	45ha

- ・「ナガノパープル」、「シャインマスカット」等の高品質果実生産に向け、適切な着果管理や土壌水分管理等を推進します。
- ・県内外で栽培が拡大している「ナガノパープル」、「シャインマスカット」において、S Q→P方針※により、果皮色・糖度等の果実品質の改善を進め、他産地との競争力強化を図ります。
※S Q→P方針とは Skill (技術)、Quality (品質)、Popular (人気) の頭文字をとったもので、高い技術と品質により、消費者に選ばれる産地を目指すものです。
- ・「クイーンルージュ®」について、新梢管理や房づくり等の栽培技術の普及により、高位平準化を図ります。
- ・果皮色・糖度・果粒重など、高級果実として「クイーンルージュ®」の持つ特性を最大限活かした生産品質基準づくりに取り組み、市場や果実専門店等での優位な販売につなげます。
- ・J A等と連携した、産地別の果皮色等状況調査を行い、各地域の品質の特徴に基づいた販売体制の検討を行います。
- ・「クイーンルージュ®」の冷蔵貯蔵試験を行い、冬期の贈答用品目として貯蔵技術の確立・普及を推進します。
- ・就農して間もない醸造用ぶどう生産者の栽培技術向上に向け、地域特性や品種等を考慮した栽培研修会を開催し、生産量の確保や栽培技術の高位平準化に取り組みます。

■なし

- ・早期成園化や管理作業の省力化が可能な、「樹体ジョイント仕立て栽培」の導入支援を進めるとともに、新たな生産者の確保に向け、現地検討会を実施します。
- ・労働生産性の向上に向け、作業の省力化となるロボット草刈機や低位生産園等の再生を推進します。
- ・地域の果樹産地構造改革計画等に基づいた、新たな品種の導入を検討します。
- ・産地ごとに受粉用花粉の安定確保体制の整備をすすめます。

■もも

- ・新たな生産者の確保に向け、新規就農者や定年帰農者へ紹介できる温暖化等に対応した新たな品目としての平場産地での導入を検討します。優良な事例の調査を進めます。
- ・産地の生産力強化を図るため、結実が良好で生理落果も少ない「なつっこ」等の優良品種への改植を支援します。

●果樹産地基盤の強化・生産力向上

■産地基盤の強化

- ・果樹園の再生を推進するため、基盤整備事業による遊休農地の解消や低位生産園等の改植、耕作条件等の改善を支援します。
- ・生産基盤の強化を図るため、補助事業を活用した生産施設の整備を支援します。
- ・気象災害に強い産地づくりを推進するため、補助事業により防霜ファンや多目的防災網等の設置を支援し、被害軽減に向けた取組を推進します。
- ・気象災害による経営リスクの軽減を図るため、収入保険制度や果樹共済等の加入を促進します。

■樹園地継承の推進

- ・担い手への円滑な樹園地継承を推進するため、県内における樹園地継承組織の取組事例を参考に、各地域で受け皿となる組織の育成・定着を普及支援します。

■スマート農業技術の導入促進

- ・省力化を図るため、メーカーと連携しながら、現地実証や実演会を実施します。

■特産果樹の産地力強化

- ・プルーン等の核果類の産地力強化を図るため、栽培管理研修会等の開催により栽培技術の高位平準化と品質向上対策を推進します。

●県オリジナル品種等の魅力発信と輸出拡大

■県産果実の認知向上と消費拡大

- ・県産果実の認知度向上による消費拡大を図るため、生産者団体と連携した、りんご三兄弟®、ぶどう三姉妹®のトップセールスを実施し、優れた特性を県内外の市場関係者や果実専門店等へ訴求します。
- ・県産果実の輸出拡大を図るため、「クイーンルージュ®」を中心にSNSでの情報発信を進めます。

■「おいしい信州ふーど」の取組による魅力発信

- ・県オリジナル品種が持つストーリーをSNSなどにより発信し、消費拡大を図ります。

■多様な需要への対応

- ・マーケットニーズの高いカットフルーツ向け果実の生産拡大を図るため、生産者団体と連携し、県内食品企業と果樹生産者とのマッチングにより生産体制づくりを支援します。

■果樹園における脱炭素化等の推進

- ・地域での炭素貯留の取組を促進するため、果樹せん定枝の炭化専用機器等の導入を支援します。

4 長野県果樹振興品種（令和6年度）

別添のとおり